

多摩川と大栗川の合流部に多様性保全型公園をつくる 「あおさぎ公園（仮称）」の提案（概要版）

● 目的

この場所は、多摩川河口から34 kmの中流域の、大栗川との合流部付近です。下流側に大丸用水堰があるため、川の流れが緩やかとなり、永年の砂礫の堆積により堰上湿地(*1)を形成しています。

このような堰上湿地は都市部において多くの水鳥や水生生物の生活するうえで重要な場所となるほか、附近の緑地とを行き来する動物も生息します。当地では年間で130種余りの野鳥が記録され、この中にはカワセミなどの水鳥の他に、森や林に住んでいたり繁殖している鳥が観察されています。

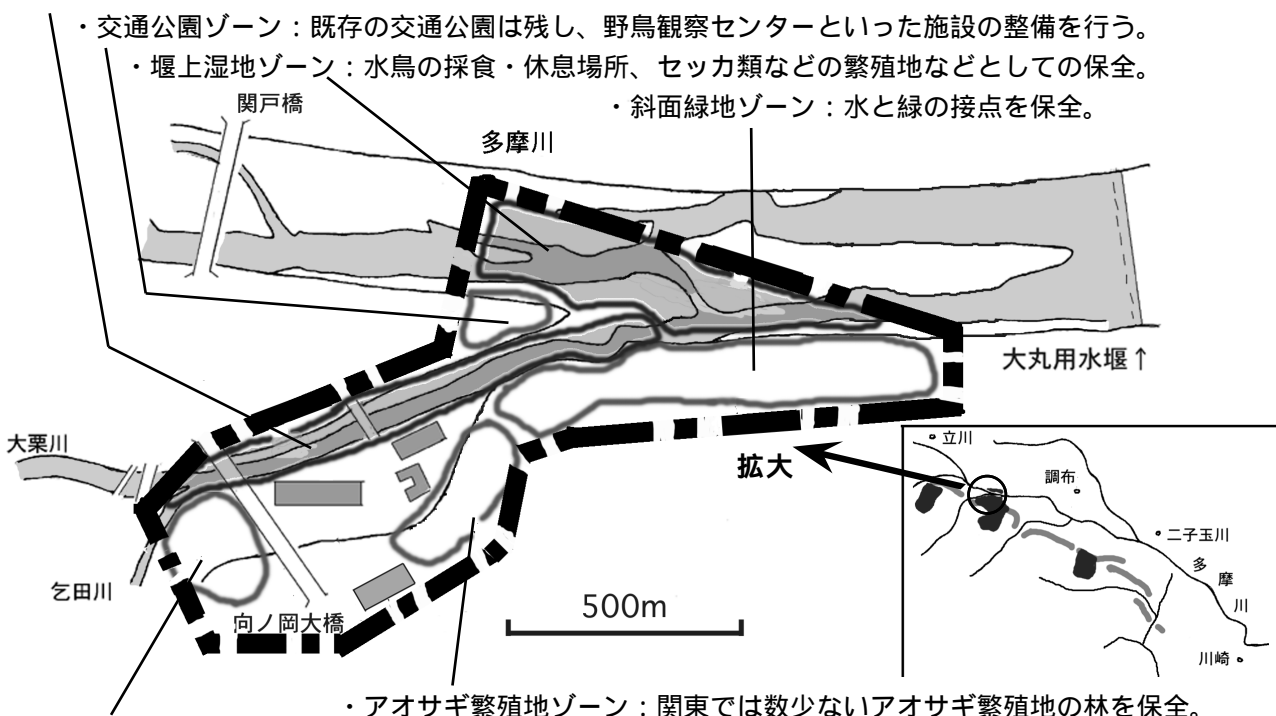
この地域では、周辺の緑地とのつながりを考慮した保護は未だなされていません。しかし、周辺の緑地には関東地方では有数のアオサギの繁殖地があるなど、緑地を含めた保護は、生物の供給源となる緑の拠点「大丸用水堰堰上湿地・桜ヶ丘公園緑地群」としても重要です。

この計画は、生きもののにぎわいのある河川と周辺の良い環境を維持、およびエコアップするとともに、貴重な自然の残るこの場所の川や生きものに親しんだり、環境教育のできる場所を創成することが目的として提案しています。

(*1)堰上湿地とは永年の砂礫の堆積によって水深が浅くなり、湿地のようになった所をさす。今回新たに作った造語。

● 提案の中身

- ・大栗川ゾーン：大栗川エコアップの第一歩。気軽に人が川に降りられるように改修する。
- ・交通公園ゾーン：既存の交通公園は残し、野鳥観察センターといった施設の整備を行う。
- ・堰上湿地ゾーン：水鳥の採食・休息場所、セッカ類などの繁殖地などとしての保全。
- ・斜面緑地ゾーン：水と緑の接点を保全。



- ・アオサギ繁殖地ゾーン：関東では数少ないアオサギ繁殖地の林を保全。
- ・とんぼ池ゾーン：池を新たに掘り、手軽に生き物に触れることのできる場所とする。小中学校の環境教育に役立てる他、大栗川に住む小型の魚を育む池にする。
- ・その他：案内板の設置や、散策コース案内のパンフレットを作成する。

公園範囲の形状については、多摩市の市域によるものとなっています。今のところ、多摩市の担当者に対して提案を行い、内容等について協議しているところです。この提案により、市街化地域の緑地を保全できる上、いきもののにぎわいも保全できます。皆様のご理解、ご協力をお願いします。